京都府立大学京都地域未来創造センター 主催

2022 年度 まちづくり人材育成プログラム 「場づくり Labo in 南山城－生業と地域-」

開催報告

【なぜ、いま、「場づくり」なのか？】

まちづくり人材育成プログラム「場づくり Labo」とは、自治体職員、地域づくりに関わる社会人や実践者を対象に、住民主体の地域づくりの現場を体感してもらい、ディスカッションを通じて、「地域づくり」を問い直す合宿型のプログラムです。

京都府立大学京都地域未来創造センターでは、地域づくりで、地域内外の人や組織が出会い、関係をつくり、課題解決につなげ、価値創造を生み出していく「場」について、実践的な研究を進めてきました。本プログラムでは、人づくりと地域づくりとの関係性に着目し、化学反応が起きるプロセスをどのようにデザインしたらよいのか、地域のキーパーソンから話を聞き、参加者同士で話し合う、学びの「実験室（Labo）」を展開しています。

【なぜ、南山城村？ 】

2022年度は、2021年度に引き続き、宇治茶の生産地として知られ、高齢化・人口減少が進むなかで住民が住み続けるためのむらづくりで注目を集める京都府南部にある、京都府唯一の村、南山城村を訪問しました。2017 年にオープンした「道の駅みなみやましろ村」が、村の地域商社としての役割を担い、人や組織をつなぐ場としてどのような役割を果たしており、新しい動きを生み出しているのか、実際に歩き、地域のキーパーソンに話を伺いました。

【プログラムのねらい】

① 南山城村田山地区を歩いて、生業を基盤にした集落の形や暮らしを知る
② 地域のキーパーソンに事業をはじめたきっかけとこれからのビジョンを聞く
③ 地域づくりにおける場づくりと人づくりの関係についてヒントを得る
④ 立場によってものの見方が異なることを体感的に理解する

【日程】

事前学習（オンライン）：2023 年10月15日（土）午前10時～午前12時
合宿プログラム　　：2023 年10月29日（土）午前9時30分～10月30日（日） 12時（1泊2日）

【会場】 1日目： 南山城村 旧 田山小学校（現：田山生涯学習センター）
2日目： 南山城村文化会館（やまなみホール）

【参加者】9名

自治体職員6名・地域づくり支援者1名・大学教員1名・京都府立大学大学院生1名

【地域キーパーソン】

森本健次 さん　株式会社南山城 代表取締役（兼 プログラムのメンター）
中窪良太朗さん　中窪製茶園 5代目
岸田いずみさん　南山城村役場 産業観光課
兜岩知也 さん　兜デザイン・カメラマン・グラフックデザイナー

【プログラムの構成要素】

① 事前学習　②キーパーソンに学ぶ　③まち歩きと現地調査　④ふりかえり／まとめ

【キーワード】

住民主体／生業と地域／地域内資源循環／住み続けられる村づくり／つながりの再構築／関係人口／場づくりから始まる地域づくり

【主催】　京都府立大学京都地域未来創造センター

【企画協力】　株式会社南山城・ 南山城村役場
ポートランド州立大学公共サービス実践センター（アメリカ合衆国オレゴン州）

【スケジュール】

<table>
<tr><th></th><th>10月28日（土）</th><th>10月29日(日)</th></tr>
<tr><td>9:00am</td><td></td><td rowspan="2">訪問先④
道の駅みなみやましろ村</td></tr>
<tr><td>9:30am</td><td>開始：　会場（旧 田山小学校）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9:30-
11:30am</td><td rowspan="2">訪問先①
旧 田山小学校
メンター森本さんによるレクチャー・Q&A</td><td>やまなみホール（南山城村文化会館）へ移動
（車に分乗）</td></tr>
<tr><td>振り返り
全体セッション</td></tr>
<tr><td>11:30-
12:30am</td><td>昼食（村のお弁当）
周辺の散策（地域唯一の商店など）</td><td rowspan="7">12時終了・解散</td></tr>
<tr><td>12:30-
2:00pm</td><td>訪問先②
南山城村移住交流スペース「やまんなか」</td></tr>
<tr><td>2-4pm</td><td>訪問先③
中窪製茶園（工場、茶畑）
車に分乗して移動</td></tr>
<tr><td>4-5pm</td><td>振り返り</td></tr>
<tr><td>5-6pm</td><td>移動　（車に分乗）</td></tr>
<tr><td>6:30
-8:00pm</td><td>交流会（会費制）
道の駅の村の食堂「つちのうぶ」にて</td></tr>
</table>

訪問先（南山城村）

訪問先①：中窪製茶園

https://www.seichaen.com/

地域キーパーソン

- 「和紅茶」の栽培
- 積極的な情報発信
- ウェブサイトでの販売、催事への出店
- 新茶の茶摘み体験

中窪 良太朗さん（中窪製茶園５代目） 南山城村出身。大阪でウェブデザイナーとしての経験を積んだ後に、家業を継ぎ、緑茶づくりに取り組む。南山城の紅茶づくりにも関わる。催事やイベント、外販にも精力的に取り組むこれからの若手茶農家。

訪問先②: 旧 田山小学校

地域キーパーソン

03年 児童数の減少で田山小学校閉校

- 村と村内にあった3小学校（大河原・高尾・田山）を閉校
- 2006年に野殿童仙房小学校を閉校

06年 ものづくり工房としてオープン

- 村と地域住民との話し合いで校舎を残し、交流の拠点として活用
- クラフト工房やアトリエ、caféが入居する施設として再整備
- 都市住民やアーティストを呼び込んで交流イベントを開催

森本 健次さん（株式会社南山城 代表取締役）一般社団法人京都山城地域振興社（お茶の京都 DMO）取締役、合同会社むら村社員 1967 年京都府南山城村生まれ、1985 年南山城村役場入職。2010 年　南山城村長特命の魅力ある村づくり事業担当。2015 年　南山城村出資の株式会社南山城代表取締役に就任し、2016 年3 月　道の駅開業に専念するため退職。2017 年4 月開業の「道の駅お茶の京都みなみやましろ村」を拠点に地域商社として、村茶のブランディングをはじめ、農産物の商品化、販路拡大等に取り組んでいる。

訪問先③:
南山城村 移住交流スペース「やまんなか」

地域キーパーソン

- 2016 年 4 月：移住定住推進員 2 名を配置
- 2016 年 10 月：空き家バンクスタート
- 2017 年 5 月：移住交流スペース「やまんなか」オープン

コンセプト「村のファンを作る場所」
移住促進、空き家の紹介、
村内外の人をつなげるイベントの開催

岸田 いずみさん（南山城村役場産業観光課） 南山城村出身。南山城村役場産業観光課で移住促進事業と商工観光振興事業を担当。隣町の和束町在住。村の好きなところは、村人の距離の近さと気前の良さ。夜の暗さと静けさ。とても落ち着きます。

訪問先④ 道の駅 お茶の京都 みなみやましろ村

地域キーパーソン

- 2010年から「農山村らしい地域振興、魅力ある村づくり」（「南山城村魅力ある村づくりプロジェクト」）を推進
- 道の駅を休憩所や土産物売り場の機能だけでなく、地域の暮らしを受け継ぎ、支える「ビジネスモデル基地」として位置づけ
- 2017 年 4 月 15 日 オープン

兜岩 知也さん（グラフィックデザイナー・カメラマン）　南山城村出身。2011年に実家である南山城村・高尾地区にUターンしデザイン事務所 兜デザインの拠点を村に移し、道の駅お茶の京都みなみやましろ村のトータルデザインを担当。

● **参加者の感想**

Q1:プログラムの良かった点を教えてください。

- 地元の方々と、直接、お話しができたこと。
- 机で学んだ理論などを実感に落とし込めたこと
- まちづくりの多様なキーパーソンと凝縮された時間を過ごせたこと
- "・地域のキーパーソンさんたちの活動のホームで、実際に施設や茶畑を見学しながら、お話を伺えて、南山城村について見て聞いて学べたところ
- 一日目のお昼ごはんの時間、車移動、懇親会、夜の座談会、グループワークなど、皆さんとコミュニケーションを取って、交流できる機会が豊富にあったところ
- 森本さん方のお話について、世に出ている本や、大学で講義された内容では語られていない部分まで、お聞きすることができたことや、こちらの疑問にお答えいただけたこと
- 大自然の美しい景色、綺麗でくつろげるホテル、おいしいごはん・お土産という非日常の中で、リフレッシュできたこと
- 現地を直接見て、村の方々からのお話を直接聞き、五感で体験としての知を得られた。
- 少人数でのグループワークも随所にあり、小さな学びサイクルがプログラム化されていてよかった。（インプット→一人でメモ→グループで対話→全体へシェアするアウトプットのサイクル）
- 南山城村で活動するさまざまな立場のキーマンから話を聞くことができたこと。
- 参加者や南山城のスタッフの方と交流する時間がしっかり設けられていた点
- プログラムの長さもちょうどよかったと思います。
- 事前の連絡や当日の運営、後のフォローにいたるまで、事務局の方々の丁寧なアシストで、安心してプログラムに集中することができたこと。

- 現場の方の声を聞け、良い面、悪い面も知れたこと。実際の熱意を感じられたこと。雰囲気が良かったこと。座学だけでなく、現地を見られたこと。

Q2： 今回のプログラムで最も良かったこと、得られた学びは何ですか。

- 普段関われないような業界の方々と関われたきとで、新たな視点や感覚を知れたこと
- 「誇りの回復と復権」が地元愛に基づく地域循環経済の基盤となること
- 地域のキーパーソンさんたちのお話を聞けたことはもちろんですが、その後それぞれの立場で考えた事を共有できたこと
- 他の立場からの視点を得ることで、自分や自分の職場について、良いところも悪いところも、客観的に見つめなおすことかできました。社長の森本さん、デザイナーの兜岩さんの苦労したエピソードを聞けたことが印象的でした。
- コンセプトとデザイン、南山城村音頭で「つちのうぶ」を見つけたくだり、村人とのワークショップを積み重ねたこと。
- ぼくのまとめは「時間を超えた目を持つ→ビジョンとコンセプト」「共感を生む仕組みをデザイン」でした。
- 他に任せる勇気の大切さとマインドの維持の難しさ
- 現状を打破するには、誰かが覚悟を持って負担をいとわずに取り組む必要があることを学んだ。
- プログラム設計の学びになりました。プログラム設計は調整、準備、フォローアップあってこそ、ということを改めて学び、気を引き締める思いです。「キーパーソン」に「ホーム」で出会え、これ以上ない場のしつらえだったので、そこから先の学びは各々で持ち帰れたのも、プログラムの安定感があったからこそだと思います。
- 人材（育成も含む）の大切さ。丁寧な合意形成プロセスが自分ごとになる要因でもあると感じた。
- 印象深いのは、森本さんの最初のお話で、まちづくりの利害調整には、「利と害がある。利だけを得ることはできない。」とおっしゃっていたことです。まちづくりは、様々な人や組織との協力と理解が不可欠であり、各々の利害の折り合いをつけていくことの大変さ、というのが伝わってきました。一方で、その面倒な過程を踏むことができるのは、地域のことを「自分ごと」として捉えているからこそなんだということにも気づかされました。

詳しくは、
京都府立大学地域未来創造センター
ホームページ

【参考文献】

- 京都府立大学上杉和央研究室『南山城村田山地区調査報告書』(2017)

- 「行政より公益を担う株式会社をつくる」(2018 年度龍谷大学大学院森本健次さん講演録) 龍谷大学地域公共人材総合研究プログラム ニューズレター第 16 号(2020 年 3 月発行) https://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/letter/16.html

- 「「村で暮らし続ける」を支える地域商社としての道の駅」(政策シンクタンクPHP総研「企業は社会の公器」シンポジウム資料) 2018年度 https://thinktank.php.co.jp/wp-content/uploads/2018/08/20180801_07.pdf